



いなざわ九条の会

会報第18号

<2010年11月>
発行
いなざわ九条の会事務局

■2010年12月・月例会(第31回)のご案内■

そぶえ九条の会主催の

「講演とオーボエ・ピアノの夕」

〈講演〉 演題 「私は専慶寺への疎開児童だった」

講師 稲葉誠也さん

〈オーボエとピアノの夕〉

演奏 デュオ カレドニア

オーボエ 石田 正さん

ピアノ 池谷府希子さん

に 協力・参加します。

日時

12月 4日 (土) 午後 1時30分～

場所

祖父江町体育館 2階ミーティングルーム

参加費

無料

<稲葉誠也さんの紹介>

昭和9年生まれ。名古屋市熱田区の高蔵国民学校4年生の時に山崎明島の専慶寺へ集団学童疎開(昭和19年から20年まで)。のち愛知県職員となる。「思想の科学」研究会会員。雑誌「思想の科学」の内容全索引作成。現在、城山三郎の遺品・蔵書(資料)の目録作成に従事。名古屋市東区「まちそだての会」の創立以来の会員として活躍。NPO法人「撞木倶楽部」会員。尾張旭市「矢田川に親しむ会」会員。

<デュオ カレドニア

プロフィール>

オーボエの石田正さんは祖父江町・石田写真館の御子息。プロの演奏家として池谷府希子さんらと、明治村・聖ザビエル天主堂での「春のコンサート」、名古屋女子大学の「風のコンサート」、ライオンズクラブ年次総会招待演奏、扶桑文化会館ロビーコンサート、三重県伊勢現代美術館で写真家の大石芳野さんの講演と共に反戦をテーマにした演奏など、各方面で活躍。『昭和史の証人に聞く』で「プラットホームへの遺書」を語った西山みどりさんの甥。

そぶえ九条の会

昭和史の証人・展

—ギャラリー「類」にて—

日時

12月3日(金)～12月9日(木)
10時～17時(月曜休日)

場所

喫茶「類」ギャラリー
(祖父江町体育館前)

参加費

無料

『昭和史の証人に聞く』に関連する資料が展示されています。

「9条守りたい」人の結集を

10月19日 世話人会で5周年の集いを振り返る

5周年の集いが終わり、会計報告と集いの総括のための世話人会が10月19日に行われました。出された意見を紹介しつつ、次の取組みにつなげていきたいと考えます。

収支報告は、結果を会報17号に掲載しました。支出の78万円はほぼ予算通りで、わずかながら繰越金が発生したのは幸いでした。当初の見積もりに入っていなかったものとして、合唱練習時の話兎と聴覚障害者のための手話通

訳、要約筆記の費用がありましたが、予備費で処理できました。手弁当によるみなさんの手助けで、費用を抑えることができました。

これからの活動に生かしたい反省を含めた意見です。

①会場で、入会申し込み用紙が配布されなかった。

会場で配られたアンケートの回答数は、これまでで一番多い72でした。このなかで、非会員の回答が43%もありました。3周年でも同じ現象でしたが、「感動した」との感想を多く寄せてくれた参加者に、入会を誘うチラシがなかったのは手落ちでした。

また、入会申込書は、会場で簡単に申し込みできる用紙にした方がよい。会員増をはかろう、の意見ができました。

②参加者が500人だったことをどうみるか。

目標は参加者1000人でした。近隣市13の九条の会の協力を得て、いままで以上に広範囲に呼び掛けました。合唱団員は70人が集まりました。目標を達成するためには、チケット普及は1300枚ぐらいが必要でしたが、結果は770枚余でした。「少数の力持ちに頼るのではなく、薄く広く普及したのでは」「土曜日は仕事



の人が多かった」「長い猛暑が足を引っ張った」「当日券が61枚売れたのは予想外」などの意見がでました。

③弱かった地域九条の会結成の追求。

地域の九条の会をめざし、市内7中学校区ごとの会結成を目標にしました。5周年行事を成功させ、運動を前進させたいとの思いからでしたが、足がかりや核になる人の発掘ができませんでした。

④「みゃあみゃあ集会」のタイトルに抵抗がある。

タイトルはその取組みの性格や内容を表すものですが、名古屋弁に違和感があるという声が複数でました。みゃあの方は3周年でも使用しました。タイトルに意味がなく長すぎる、という意見もありました。名古屋弁を誇張する河村たかし名古屋市長の登場で、抵抗感がでてい

るかもしれません。以上、4点に絞って紹介しました。このほかには、若世代をひきつける工夫が欲しい。合唱団代表から「休眠」と告げられたグリーンハーモニーの今後は、などの意見がありました。

会員増と配達ルートの確立が課題

いなざわ九条の会は、11月でちょうど5年になります。会員数は270世帯、400人余です。1000円の入会金と隔年行事、月例会などで生まれた収益金が、会報やチラシなどの運営資金です。会員数は結成当初からそれほど増えていませんが、会報やチラシは30人近い協力者によって、会員宅へ届けられるようになりました。しかし、協力者の高齢化や病気、転居などで配達できず、会報が届いていない会員宅も出てきています。会員への配達ルートは命の綱です。会員増を図りながら、配達協力者も増やす。総括で出された意見を踏まえて、今後、これらの課題を模索していきたいと思ひます。会員のみなさんのさらなるご協力をお願いします。

